

HSE リスク・シーキューブ 第10回 理事会 議事録

日時：平成25年 6月29日（土）13時30分～15時00分

場所：東海村中央公民館 講座室

出席：谷口，土屋，小宮山，清水，中村（陪席：池田）

1) 理事の改選について

理事の投票結果が配布され、全理事・監事が再任という結果であったが、谷口代表理事より、一昨年からの懸案であった理事の交替について問題提起があり、投票結果を尊重しつつ、ある程度の時期に理事が交替する理事会内規を作成することなどが議論された。

小宮山：ある程度理事が交替する必要がある。若手の人にも責任をもってもらいたい。

谷口：理事の交替に基本的に同意する。学会などでは2期やった後は強制的に候補者からはずすというルールを定めているところもある。理事の再任に関する内規をつくり、総会に提案したい。また、近年理事（役員）の任期が1年になってきており、併せて理事の任期を1年に定款を変更することも考えたい。

中村：解（交替する人）があれば、基本的に賛成。しかし、会員が少ない現状を考えると、交替しようにも交替できない。内規をつくることには賛成する。時期はどうなるのか？

谷口：来年交替するなら定款変更後になるので、臨時総会を開催したい。

清水：交替したくないわけではないが、自分には技術的な観点だけではない意見を述べる役割があると思う。

谷口：必ずしも変わる必要はない。定款でも「再任を妨げない」としている。

池田：1年任期にすると、交替が頻繁になって、継続的な活動ができなくなった事例があり、そこは任期を2年に戻した。

土屋：必ず変更するというわけではないし、一度理事から離れても再度理事になる場合もありうる。

中村：任期は2年とし、場合によっては任期途中でも交替できるということにしてはどうか？

土屋：あまり例外規定をつくらない方がよい。欠員の補充は現行の定款でも随時行うことができる。

清水：理事単独での活動はあまりないので、交替しても大きな問題にならないと思うが、出席しないメンバーでは困る。

中村：交替する理事をどう決めるのか？

谷口：今回の投票用紙には正会員全員の名前が列挙されているが、この投票用紙に誰を載せるかを決めるための理事会を開いて決めてはどうか。

理事会の内規（案）

- ・投票結果を最大限尊重した上で改選期に最低1名以上の理事（監事を含む）は交替する。
- ・4月に理事選挙のための理事会を開催し、交替する理事を決める。
- ・交替する理事は後任の理事（監事）の推薦を行える。
- ・立候補者も募り、投票と理事会での抱負表明を求める。

谷口：投票結果は尊重するが、今回から監事を村松さんをお願いしたいと思う。

小宮山：自分も若い人に理事を交替したい。服部さんか、阿部さんをお願いしたいと思う。

谷口：理事会の推薦という形で服部さんを新理事に、村松さんを監事として総会に諮りたい。併せて代表理事や副代表理事も交替してはどうか。土屋さんに代表理事、副代表理事に中村さんではどうか。

土屋：東海村の施設利用などの手続き上、副代表理事の1名は少なくとも東海村民である必要がある。

中村：副代表理事は東海村の人がよいので、清水さんはどうか。

新理事会構成（案）

代表理事：土屋智子

副代表理事：佐藤隆雄、清水朋子

理事：中村洋平、服部成雄、谷口武俊

監事：村松健

谷口：小宮山さんには顧問として引き続き視察のリーダーを務めてもらいたい。秋に理事の任期や所在地変更、顧問の設置などの定款変更のための臨時総会を開きたい。

2) 平成 24 度事業報告案および収支決算報告案について

土屋副代表理事より、通常総会で報告する平成 24 度事業報告案と平成 24 度決算報告案が報告され、質疑応答の後、総会へかけることが承認された。

小宮山：税金の負担は重いが、去年までは蓄積があったので大丈夫だった。法人会費が 0 になり、受託事業に依存する状態。固定的な収入が少なく、変動的な収入が多いのは問題。広報誌の費用削減を考えることもある。

谷口：3.11 前にはかなりの蓄財があったが、3.11 後必要な支出として広報誌の発行を行った結果、繰り越しがほとんどなくなった。今後は設立当時の“身の丈にあった”活動しかできない状態ということだ。今後の事業計画との関連で議論した方がよいだろう。

3) 平成 25 年度計画と予算案について

土屋副代表理事より、平成 25 年度活動計画と予算案が紹介され、議論の後、総会議案とすることが承認された。

谷口：25 年度事業の中心である「活動冊子」とはどのようなものか？

土屋：研究プロジェクト開始から 10 年をすぎ、2 年後には NPO 設立 10 周年を迎えることから、これまでの活動を視察プログラムを中心にまとめている。時系列ではなく、日本原電について最初の視察、不祥事問題、2 回目の視察、3.11 後と事業所ごとにまとめる予定で、提言内容の変化や検証もある程度できると思う。

谷口：面白そうな内容。何冊くらいつくる予定か？ よいものができれば、国などリスクコミュニケーションに関心のあるところに配るということもある。

小宮山：たくさんは作れないが、広報誌を配布していた事業所などへは配布したい。

土屋：コミュニティセンターには 5 冊とか、同じ場所に複数冊届けているままなら、300 部くらいは必要。

谷口：よいものなら、どこかに印刷費を支援してもらうこともあるだろう。

小宮山：これからいろいろな市町村が防災計画を策定しなければならない。我々が防災訓練や防災計画についてどのように考えていたかは役立つはず。各市町村へも配布したい。

谷口：印刷しなくても電子媒体で配布して、支援してくれるところがあれば印刷するというのもある。

小宮山：HPも固い表現なので、もう少し工夫したい。阿部さんはフェイスブックなどをやっていて、ネットワークもある。

谷口：SNSの活用は重要。阿部さんに広報担当になってもらってはどうか？

中村：広報誌の内容は機密情報とまではいかないが、扱いが難しい情報も含まれている。

土屋：途中段階の情報が流出しないように気を付ける必要はある。

小宮山：清水さんにも、より身近なタイトルをつけるなどセンスを活かしてもらいたい。

谷口：サイエンスタウン構想については、村長選後どのような状況になるかを考える必要がある。

土屋：今年度は大々的な活動は行わず、準備期間という位置づけの受託になっている。

中村：福島第二の見学はどうなったか？

土屋：所長が交替するなど先方の状況が変わった。問い合わせてみるが、福島の地元の方が見学されていない段階で、他地域の一般住民を受け入れていただけるかどうかは不明。

小宮山：原子力撤退の雰囲気の中で、安全対策についても防災についても話ができなくなった。周囲には原子力事業所に家族が勤めている人もいて、配置転換など苦労している。また、安全対策も防災も、再稼働が前提になるので、以前のように話せない。